

第4回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会

日時：平成21年7月27日（月）13:30～

場所：西区役所 3階 3B会議室

次 第

1 開 会

2 議事録の確認

【資料1 議事録】

3 第1期計画の振り返りについて

【資料2 第1期計画の振り返り】

4 第2期計画の素案について

【資料3 第2期計画素案（案）】

5 その他

(1) 次回日程について 月 日（ ） 時 分～

6 閉 会

第3回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会 議事録

開催日時	平成21年6月29日(月) 午後1時30分～3時45分
会場	西区役所3階 研究室
出席委員	9人 (欠席 1人)
事務局	地域ケアプラザ、西区社会福祉協議会、西区役所
内容	<p>1 開会</p> <p>2 前回までの確認【資料1】</p> <p>第1回策定委員会での検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期計画策定までのスケジュール、第1期計画の推進状況の確認。 第2期計画の基本的な考え方(第1期計画の継承、地区別計画の策定、区社協計画との一体化、6か年の計画とすること)、策定の進め方(策定委員会の開催、「地区別計画策定にあたり、懇談会メンバーの意見を反映すること)を検討した。 <p>委員会として、区全域計画においては障害者など支援が必要な人については、地区単位だけでなく、区全体での取組みが必要なこと、団体の意見も反映したものを基盤にすることを確認し、第2期計画の基本的な考え方として、策定作業をすすめていくこととした。</p> <p>第2回策定委員会での検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 区計画(区全域計画、地区別計画)と区社会福祉協議会と市計画の関係性を確認。 第1期計画の評価と第2期計画の評価方法について検討。 <p>福祉保健推進の目標値について、第2期計画では区民アンケートや団体ヒアリングを踏まえ、重点的に取り組むべき項目を定めること、重点的に取り組む項目について第2期計画の最終年度(平成27年度)の具体的な数値を定めていく方向性を確認した。</p> <p>個人の振り返りである「区民アンケート」について、第2期計画では、よりわかりやすく、回答しやすくなるよう見直しをしていくことを確認した。区民アンケートについては、平成21年度実施分では2,500人に送付し、1,121人より回答をいただき、現在集計中。回答率44.8%。(平成19年度実施 回答率37.7%)</p> <p>団体・行政の振り返りをする「振り返りシート」については、目標ごとに1枚程度とし、団体が活動をより広く展開するきっかけとしたり、他の団体と連携するきっかけとなるよう活用しやすいものに工夫していくことを確認した。</p> <p>3 第1期計画の見直しについて</p> <p>【資料2 横浜市市民生活白書(抜粋)、資料3 第2期計画素案(案)】</p> <p>【事務局説明】</p> <p>資料2、資料3により近年の横浜市の区民意識や社会情勢の変化について説明。</p> <p>【各委員より日頃の活動で感じている5か年の変化についての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブへの加入者が減ってきている。65歳ではまだ、高齢者という意識を持つ人が少ない。地域によっては、できるだけ早い時期に老人クラブに入ろうと考えているところもあり、年齢層も柔軟に、皆さんが楽しめる形になるとよい。

- ・ 高齢者のみ世帯も多くなり、老老介護が進んでいる。
- ・ 町内会の加入率が西区では市平均レベル（78.3%）で、今後も未加入者が増えると思われる。町内会が衰退していく原因として、後継者がいないこと。行政の仕事が町内会で受けているが、現在でも引き受けるのが難しくなっている。町内会の担い手不足は課題。
- ・ 時代も変わり、地域活動の担い手がいらない。次の担い手を育てることに力を注ぐと考えている町内もある。
- ・ 各団体など、担い手はいても、それぞれの活動が点でつながっていない。担い手のユニットをつなげていき、地域をネットワーク化していくことが必要。
- ・ 団塊の世代が地域の担い手となることを期待されているが、地域に戻れる経済環境となっていない。次代の担い手となるのは15年くらい先。時間ができたから地域に、仕事をリタイアしたからではなく、結婚、子どもの誕生などをきっかけに地域に関っていくことが必要。就学前、学校入学、大学生など地域の中で地域性を成長させていく「地域っ子を育てること」が大切。
- ・ 以前は40歳からの健康診断など住民健診が盛んで、地域で横のつながりがあった。役員などをやったことのある人は他の活動への理解がある人が多い。防災などに対しても、地域の連携があったが、今は役員など同じ人しか出てこない傾向がある。自分の年齢にあった地域活動をし、地域で健康に過ごすことが大切。
- ・ 地域の活動はボランティア。若い世代の担い手がいらない。子どもができる地域と関係ができるが、子どもが育ってしまうと地域との関りを持たなくなってしまう。
後継者が育っていない町内会はどうなるのか。
- ・ 町内会に元気がなくなると、老人会など他の組織もうまくいかなくなる。
- ・ 地域への関心が薄くなっている。地域のつながりがなくても生活はできるという傾向が強くなっている。
- ・ 民生委員をはじめ、各団体の役員を選ぶのに際し、担い手不足に大変苦労している。
- ・ 団塊の世代が地域活動にもっと出てくるかと思ったが、予想より少ない。ボランティア募集しても、人が集まらず、技術的なものや専門的な講座などでは比較的集まってくる。
- ・ 障害者に対する福祉サービスや一時ケアなどは充実してきた。その反面、地域の親どうしの支えあいは希薄になってきた。学校卒業後の行き場がない、障害のある人たちの楽しみや居場所づくりなどへの声が高まっている。
- ・ 現代は子どもが自立し、大人になるのに時間がかかる時代になってきた。次のステージになかなか移行できない若者が増えている。若い人たちは個、自分が楽しくないと参加しない傾向が強い。
- ・ 定年後の人たちも自分の今後について模索している。地域の中にどうつなげていくかが課題。
- ・ 親の介護などで地域の活動に参加できない人いる。
- ・ これだけ世の中の安全が不安定になると、学校も障害児を一人で通学させられない。いろいろな経験が阻害される要素が地域の中にある。
- ・ 離婚が増加し、ひとり親家庭を支援するしくみづくりが必要
- ・ 障害課題をもった方々に対して、制度の整備は進んだが、自分の願う生き方をする道具に過ぎない。地域とのつながりということで考えれば、学齢の特別支援に

通っている子どもたちは週のうち何回か地域校に通い、地域生活を子どもの頃から作っていく必要がある。

- ・ 地域のつながりが薄くなっていることが大きな課題。町内会の組織率も大切な要素だが、地域の人たちの出会いは参加してくれるかどうか。参加率を地域の様々な活動で高めていくことで、つながりができる。参加方法は時間、知恵、お金、力などいろいろな形がある。
- ・ いろいろな団体があるが、町内会を通してつながっている。地域が崩れると区民生活が単発になり、単独になってしまう。
- ・ 若い世代の孤立を防ぎ、地域とつながりをつくるために子育て支援をしている。支援者が地域との橋渡し役を担っている。小さい頃から地域とつながっている子は大きくなって町内活動に参加しやすい。子ども会とPTAはつながっており、地域の子どもたちを育てることを心がけている。
- ・ 地域福祉保健計画では地域を考え、盛り上げることを考えて策定していく必要がある。
- ・ PTAでの大きな課題となっているのは横浜市を4分割し、西区は東部、富士見台と岩井原は西部となる構想。両校は長年西区を活動の中心としており、小中合わせて14校で今後のプランを検討してきたので、今後の動向に不安を感じている。PTAで何か活動してきた人は町内会の活動も引き受けてくれる可能性が高い。町内の方で声をかけていただければと思う。地域がなければ、学校も家庭も考えられないのは皆分かっている。参加の仕方が難しい。

→第1期計画を見直して第2期計画策定にあたり、委員の意見、区民アンケート、団体ヒアリングの結果を反映させていくことと、6つの基本目標について、振り返りをした上で継承していく方向性を確認した。

【振り返りシートへの意見】

- ・ 第1期計画推進の5年間、振り返りシートを毎年行ってきたので、シートを軸として意見交換したい。
 - ・ 団体の5年間の変化を話し合い、今後の方向性を整理するために評価軸が必要。
- 団体・行政の5年間の振り返りを行う「振り返りシート」について委員より意見があり、次回の策定委員会で、検討していくこととなった。

4 第2期計画の素案について【資料3】

【事務局説明】

第1期計画では、区全域計画について、基本目標、小目標、福祉保健推進の目標値が定められているが、第2期計画の区全域計画においても計画の連続性を持たせるため同じ構成立てにする。また、第1期の評価を踏まえ、小目標の中で重点を定めていきたいと考えている。

福祉保健推進の目標値について、小目標で重点と定めたものに対応する数値目標について、第2期計画推進最終年（平成27年度）に目指す具体的な数値目標を新たに設定したい。

区民アンケートや団体ヒアリングの結果を踏まえ、この構成立てで次回以降検討いただきたい。

【質疑・意見】

- ・ 第1期の取組み状況を最後にもってきて、これから取組む第2期を最初にもってくる構成立ては順番がどうか。最初に第1期の振り返りをして、第2期という構

成立ての方が分かりやすい。

(事務局)

第1期計画を先に掲載する案もあったが、第2期で新しいものを策定するので、より広く知っていただくために第2期を先にした。今後どういう順番にするのか委員の意見をいただきたい。

- ・ 作業過程としては、ご意見のとおり、第1期の振り返りをして、課題を抽出する。整理をして第2期の具体的な課題、検証をする。まとめる際は第2期で計画を示し、後半で第1期での推進状況を掲載する構成立て。
- ・ 基本理念の「地域の中で定年はありません」という文言は地域活動に終わりはない、地域住民として亡くなった後まで、思い出に語られるまで、地域の一員として最後まで看取られていく。歩み続けなければいけないとか、定年がないというのはそういう意味か。

(事務局)

基本理念について、表現上の変更など今後の委員会で検討いただきたい。

- ・ 地区懇談会はどうなるのか。

(事務局)

策定のプロセスで9月の策定委員会には地区別懇談会の中から地域の課題を整理し、計画に盛り込みたいものをご提案をいただく会を設けたい。この策定委員会で受け取り、検討し、素案にまとめたものを区民に聞くような場を設けて、委員会の中で決定していきたい。

- ・ 地区別懇談会では1期のメンバーと2期のメンバーは同じでなければならないか。

(事務局)

各地区でももう少し広げた方がいいのではないかという意見もある。それはご相談しながらメンバーを増やしていく。

- ・ 地区別計画について共通項が必要。この場で全体計画との関連性を明らかにしていく。枠を定義していただいて、地区で話し合われたことを落とし込んでいく。そこに入らないものがその地区固有のものとしてだしていただく。

→次回以降、具体的な内容とあわせ、構成立てについても改めて検討していくこととした。

5 その他

第4回委員会の日程について

→平成21年7月27日(月) 13:30～ とした。

6 閉会

第1期計画の振り返り

(資料2)

振り返りシートのまとめ&策定委員意見等 (振り返りシート 回答団体数①49 →②)			区民アンケート (2500人対象・回答率 ①40%→②37.7%→2144, 8%)								
基本理念	【策定委員意見等】 基本理念の「地域での生活に定年はありません」の表現は、拘束性があると捉えてしまうと、地域活動への参加が阻害される恐れがあるため、趣旨を踏まえ、見直しを検討したほうがよい。		問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)		
			問24	今後も西区に住み続けたい	56.5	58.3	57.7	90.0	1.2ポイント増		
基本目標1 安全が確保され安心なまち	小目標	小目標ごとの 取組み数の推移	主な取組み		問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)
	(1)地域全体でサポートを必要とする人を見守る	団体①43 →②71 行政①25 →②25	子どもや高齢者に対する見守り・パトロール		問9	西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う	38.1	48.6	56.7	60.0	18.6ポイント増
	(2)近隣の人と顔見知りになる	①14 → ②29 ①1 → ②5	日ごろのあいさつや声かけ・おまつりなどの交流の場づくり		問12	ごみ出しのルールを必ず守る	75.9	76.1	74.8	100.0	1.1ポイント減
	(3)地域で助けあう関係を築く	①38 → ②52 ①6 → ②8	安全に関する講座やPR活動・障害への理解促進		問12	ポイ捨てをしないというルールを必ず守る	71.3	76.6	78.9	100.0	7.6ポイント増
	(4)マナーやルールを守り、お互いの信頼を深める	①23 → ②42 ①10 → ②14	ごみの分別、路上駐輪、たばこのルールやマナーの普及啓発・情報提供		問12	公共の乗り物でのマナーを必ず守る	44.3	42.8	41.0	100.0	3.3ポイント減
	基本目標1 合計	団体①118→②194 行政①42→②52 合計①160→②246	86増加		問12	駐輪・駐車ルールを守る	63.4	68.9	72.2	70.0	8.8ポイント増
	【策定委員意見等】 これまでの委員会で委員から出された意見を目標別に記載しました。		団体・行政の取組みの振り返りシートの、小目標ごとの取組み数の推移と主な取組みです。		問13	ルールを守らない人を見かけたときに注意することができる	22.0	23.6	23.0	35.0	1.0ポイント増
					区民アンケート結果を目標別に分けて記載したものです。			網掛けは2ポイント以上の増減があったものです。			
基本目標2 活気にあふれ健康なまち	小目標	小目標ごとの 取組み数の推移	主な取組み		問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)
	(1)自分が健康であるために、健康の意識を高める	団体①23 →②46 行政①9 →②18	健康づくりの普及啓発と情報提供・ウォーキングなど健康づくり事業実施		問1	自分が健康だと感じている	77.9	78.9	79.8	80.0	1.9ポイント増
	(2)共に地域をつくる姿勢を持つ	①29 → ②80 ①3 → ②7	地域行事の情報提供・参加の声かけ・外出の働きかけ		問2	過去1年の間に健康診断を受けた	70.4	71.2	70.4	80.0	増減なし
	(3)どの世代でも活躍できる場面を持つ	①21 → ②61 ①5 → ②6	自治会町内会活動・ボランティア活動・団体の活動と参加のきっかけづくり		問3	健康診断などの結果、生活習慣病が特にならない	39.7	40.4	45.7	50.0	6.0ポイント増
	(4)素直な気持ちで人とつながる	①16 → ②51 ①6 → ②3	地域活動の情報提供・交流の場づくり		問4 (1)	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの医師がいる	55.0	55.4	54.5	90.0	0.5ポイント減
	基本目標2 合計	団体①89→②238 行政①23→②34 合計①112→②272	160増加		問4 (2)	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの歯科医師がいる	53.1	53.4	53.0	90.0	0.1ポイント減
	【策定委員意見等】 ○かつては住民健診がさかんであったが、今は個人的に健康を管理する時代になったと感じている。 ○地域活動に一度でも参加したことがある人は次の場面でも声かけやすく、つながりの「輪」ができる。 ○自治会町内会を始め地域の担い手は高齢化などにより後継者や次の担い手不足に悩んでいる。 ○自営業の人が減り、地域の役員を担える人が減っている。 ○次の世代を育てていく取組が必要。 ○親の介護などにより地域活動に参加したくてもできない層がいる。 ○高齢者といっても年代も幅広いため、年齢によっていくつかのグループがあると参加しやすい。 ○地域活動への参加率を様々な場面かつ様々な手法で高めていくことで、つながりが生まれてくる。 ○参加の形を多様化していくことで、障害のある人、高齢者、共働きの人も参加できるようにすることが重要。 ○経済情勢等により団塊の世代はまだ地域活動に参加する環境が整っていない。 ○技術的なボランティアなどテーマを定めた募集には男性の参加が比較的多い。				問4 (3)	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの薬剤師がいる	17.8	19.2	21.4	30.0	3.6ポイント増
					問5	健康を維持するのに必要な身体を動かすことに既に取組んでいる	35.8	37.6	34.4	40.0	1.4ポイント減
					問6	健康を維持するために食生活の改善に既に取り組んでいる	47.6	53.1	51.4	80.0	3.8ポイント増
					問16	家族以外で自分の世代とは違った人と共に活動する機会があった	38.0	38.2	40.1	70.0	2.1ポイント増
					問17	自分の世代とは違った人と共に活動する機会があれば参加したい	39.4	37.9	36.9	60.0	2.5ポイント減

第1期計画の振り返り

(資料2)

基本目標3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち

小目標	小目標ごとの取組み数の推移	主な取組み
(1) 地域と接点を持つ	団体⑰34 →⑳41 行政⑰8 →⑳10	高齢者や障害者に対する地域活動の情報提供・参加の声かけ・参加しやすい行事の企画
(2) 自分からも気持ちを伝える	⑰23 →⑳36 ⑰6 →⑳8	相談の場の設置・相談対応・情報提供や専門機関とのコーディネート
(3) サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち支援する	⑰27 →⑳16 ⑰10 →⑳12	困りごとへの対応・ボランティア活動・障害者の一時ケアサービスの提供・行事等での手話通訳の配置・災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル作成
(4) 障害児は、いろいろな人といろいろなところ(場面)で多くの体験をする	⑰12 →⑳18 ⑰4 →⑳4	障害児の余暇支援・障害に対する理解促進・参加しやすい行事の企画
基本目標3 合計	団体⑰96→⑳111 行政⑰28→⑳34 合計⑰124→⑳145	21増加

【策定委員意見等】

○近年、障害者が生活するための一時ケア・福祉サービスは充実してきたが、その半面で地域の親土士の支えあいは希薄になっている。
 ○学校卒業後の行き場が少なく、障害のある人の楽しみや居場所が必要と感じている。
 ○安全面が不安定な社会において、障害者がさまざまな経験を地域でする機会が減ってきている。
 ○障害児だけでなく一人親家庭の子、発達課題のある子どもたちと地域とのつながりづくりが大きな課題と感じている。
 ○高齢者といっても年代も幅広いため、年齢によっていくつかのグループがあると参加しやすい。

基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

小目標	小目標ごとの取組み数の推移	主な取組み
(1) 自分たちの活動を見つめなおす	団体⑰13 →⑳12 行政⑰3 →⑳5	団体の定例会や研修会の開催・会員同士の意見交換会・担い手の育成・団体の活動のPR
(2) 関係する団体同士の連携を図る	⑰29 →⑳41 ⑰7 →⑳10	定例会等への関係団体の参加や情報交換・合同の研修会開催・情報交換会開催
(3) より広い範囲でのつながりをもつ	⑰5 →⑳19 ⑰3 →⑳4	活動内容の周知・地域の行事への協力・関係づくりのきっかけとして行事の情報を他の団体へ提供
基本目標4 合計	団体⑰47→⑳72 行政⑰13→⑳19 合計⑰60→⑳91	31増加

【策定委員意見等】

○地域の担い手は、それぞれ地域の中で「点」として活動しているため、それらをつなげ有機的に面としての動きを作っていく必要がある。
 ○NPOなど新たな組織と町内会が手を結び、地域を支え、つながりを作っていく必要はない。
 ○自治会町内会を始め地域の活動では後継者・担い手不足に悩んでいる。
 ○老人クラブは、亡くなる方も多く、会員も減少している。一方で新しい人の加入は少ない状況である。
 ○子どものころから地域とのつながりを持たせるような仕掛けが必要である。
 ○子どもの誕生などライフステージによって地域とのつながりに変化があるが、最近できた新しいマンションの居住者などはまだそのステージではなく時間がかかると思われる。
 ○子ども会とPTAはつながりを持ち、地域で子どもたちを育てることを心がけている。

問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)
問14	障害者(児)と共に活動を行う機会があった	17.1	18.4	16.0	30.0	1.1ポイント減
問15	障害者(児)と共に活動する機会があれば参加したい	30.3	25.4	22.9	50.0	7.4ポイント減
問20	困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる	53.9	50.9	49.3	80.0	4.6ポイント減

(再掲)

問16	家族以外で自分の世代とは違った人と共に活動する機会があった	38.0	38.2	40.1	70.0	2.1ポイント増
問17	自分の世代とは違った人と共に活動する機会があれば参加したい	39.4	37.9	36.9	60.0	2.5ポイント減
問20	困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる	53.9	50.9	49.3	80.0	4.6ポイント減

基本目標4に対する福祉保健推進の目標値は計画にはありませんが、他の目標に対する目標値のうち、参考となる項目を再掲しました。

第1期計画の振り返り

(資料2)

基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

小目標	小目標ごとの取組み数の推移	主な取組み
(1) 自分の身体を大切にする	団体⑰18 →⑳38 行政⑰10 →⑳13	子どもに対する健康教育、保健指導・保護者に対する啓発
(2) 良いこと、悪いことの判断力を身につける	⑰5 →⑳6 ⑰1 →⑳0	子どもに対する生活指導・薬物乱用防止・金主・喫煙の害に関する学習指導
(3) 周りの大人は子どもを気にかけて、声かけや見守りをする	⑰14 →⑳32 ⑰3 →⑳3	子どもへの声かけ・見守り・パトロール
(4) 子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる	⑰13 →⑳17 ⑰11 →⑳13	高齢者との交流の場づくり、異世代交流の行事の企画・地域の子育て支援・子育て情報の提供
基本目標5 合計	団体⑰50→⑳89 行政⑰25→⑳29 合計⑰75→⑳118	43増加

【策定委員意見等】

○制度が整う一方で、障害児の子育ても普通の子育ても、親が子どもと向き合うことが減っている。
○子育て支援活動では、母親の孤立化を防止するためにも、町内会の行事の情報提供など地域との橋渡しが重要な役割である。
○幼少のころから親と一緒に地域の行事へ参加していると、大きくなってからは一人でも参加する。
○子ども会とPTAはつながりを持ち、地域で子どもたちを育てることを心がけている。

問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)
問11	地域で未成年の喫煙をほとんど見かけない	11.1	19.9	27.9	100.0	16.8ポイント増
問18	近隣の子どもにあいさつなどの声をかけることがある	57.0	61.1	57.9	90.0	0.9ポイント増
問19	近隣の子どもに注意することができる	60.1	61.5	56.4	90.0	3.7ポイント減

基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

小目標	小目標ごとの取組み数の推移	主な取組み
(1) 地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる	団体⑰28 →⑳55 行政⑰8 →⑳15	広報紙やホームページを活用した活動内容の周知や情報伝達、行事案内・情報交換会開催、情報ボランティア（eネットにし）結成
基本目標5 合計	団体⑰28→⑳55 行政⑰8→⑳15 合計⑰36→⑳70	34増加

【策定委員意見等】

問	項目	H15 (%)	H19 (%)	H21 (%)	目標値	伸び率 (H15→21)
問7	西区からのお知らせや催し物の情報入手方法（ホームページから得る人の割合）	2.4	4.0	4.0	10.0	1.6ポイント増
問8	あなたはインターネットを活用していますか		48.0	55.1		7.1ポイント増

第2期西区地域福祉保健計画素案(案)

今回(7/27)は、9～ページの「第2章
区全域計画」についてご意見をお聞かせく
ださい。

その他の部分や内容については、次回以
降改めて検討します。

第1章 計画の概要

1 西区地域福祉保健計画とは

西区地域福祉保健計画は福祉や保健などの様々な生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住みなれたまちで「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を目指した計画です。

(1)計画の背景

西区では下町の風情が残るまちと大規模なマンションが建つ新しいまちが共存しています。

平成15年には1世帯あたりの人数が2人となり、核家族化・少子高齢化が進展し、生活習慣や価値観の多様化により、近隣どうしの助け合いや地域のつながりが弱まってきています。

そうした中、「地域に暮らすすべての人」を区民一人ひとりが地域で支えあい、主体的に取り組んでいく仕組みが「地域福祉保健計画」です。

(2)計画の位置づけ

地域福祉保健計画を策定する法的な背景として、平成12年の社会福祉基礎構造改革において、地域福祉の推進と市町村地域福祉計画が社会福祉法第107条に規定されました。

横浜市では、きめ細やかな生活課題を十分に反映させるため、区ごとに「地域福祉計画」を策定し、市レベルでは区計画を支援するための計画を策定することとしました。

西区では平成15年度から2か年をかけて第1期計画を策定し、17年度から21年度の5年間を取組み期間とし、推進してきました。

(市計画と区計画)

(3)計画の特徴

- ①区民の声を広く集め、一緒に考えました。
- ②地域福祉保健推進の指標を設定し、計画の最終年次に推進がどの程度図られたのか把握しました。
- ③区民（個人）、団体、行政のそれぞれの取り組みを明らかにしました。

今回(7/27)は、9ページ以降の「第2章 区全域計画」についてご意見をお聞かせください。

その他の部分や内容については、次回以降改めて検討します。

2 第2期計画の方向性

(1) 第1期計画を継承する

幅広く多くの区民の声を集めて定めた第1期西区地域福祉保健計画は、計画期間5か年で完結するものではなく、だれもが住みやすい西区を目指すうえで、普遍的・永続的な計画となっています。

そのため、引き続き第2期計画でも第1期計画の基本理念や基本目標を継承したうえで、この5年間の推進状況の評価や社会の変化を踏まえた見直しを行い、第2期計画とします。

(2) 地区別計画を策定する

第1期計画は、団体・行政が目標に向けて取り組むとともに、区民への普及啓発を図り、区全体として広く計画推進を行ってきました。

また、平成20年度からは、地域の特性に合わせ、きめ細やかな計画推進を目指し、地域住民と区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ（以下、「区役所等」とします）がともに地域の課題や解決方法等について話し合う懇談会を各地区で開催しています。

第2期計画では、懇談会での話し合いや課題解決に向けた取組みを計画としてまとめ、地域と区役所等がともに力をあわせ、具体的な地域の課題解決に結び付けていくため、地区別計画を策定します。

(3) 区社協計画と一体的に策定する

西区社会福祉協議会（以下、「区社協」とします）の「西区社協福祉プラン」（地域福祉活動計画）は、西区地域福祉保健計画と同じ目標を共有し、区社協や地区社協の役割を中心に定めたものです。その推進にあたっては、区計画と一体的に取り組んでいるところであり、第2期計画は、一層の連携強化・共同推進を図るため、両者を一体化した計画とします。

3 第2期計画の期間

(1) 計画期間を6か年とする

横浜市では、市全体の基本理念と方向性を示し、区計画の支援計画として横浜市地域福祉計画（以下、「市計画」とします。）を策定しています。

平成21年度から始まる第2期市計画の素案では、区計画の先行区（西区を含む7区）と後続区（11区）で1年間ずれていた計画期間をそろえるため、第2期区計画の最終年度をあわせることが示されています。

西区といたしましては、横浜市全体の地域福祉保健計画の基本理念を西区の計画推進に効果的に活用できると考えるため、計画の期間を平成22年度～27年度の6か年とします。

4 第2期計画の策定経過（策定の最終時点で記載）

5 西区の特徴・5か年の変化

西区は、横浜市のほぼ中央に位置し、面積 6.98 ㎡、人口 92,398 人（平成 21 年 3 月現在）で、18 区中最も小さい区です。

区内には、県下最大の商業・業務機能が集積した“横浜の玄関”横浜駅周辺地域や、“横浜の新しい顔”みなとみらい 21 地区、横浜開港以来の歴史を伝える野毛山・掃部山地域や、浅間町・平沼・藤棚町など下町情緒あふれる地域があり、小さいながらも様々な特色ある地域で構成されています。

また、みなとみらい 21 地区では企業誘致やマンションなどの開発が進み、平成 20 年 2 月に 33 年ぶりに人口が 9 万人を突破しました。

地区割りした区の地図を掲載

(1)人口の推移

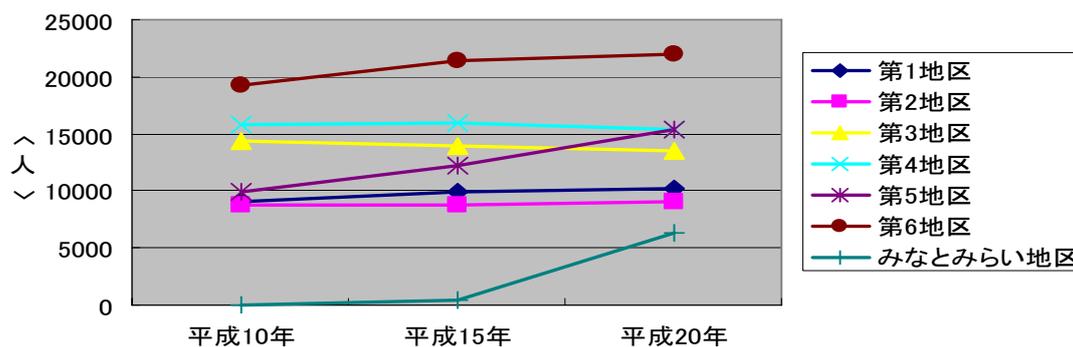
【区全域の推移】

各年 3 月 31 日現在

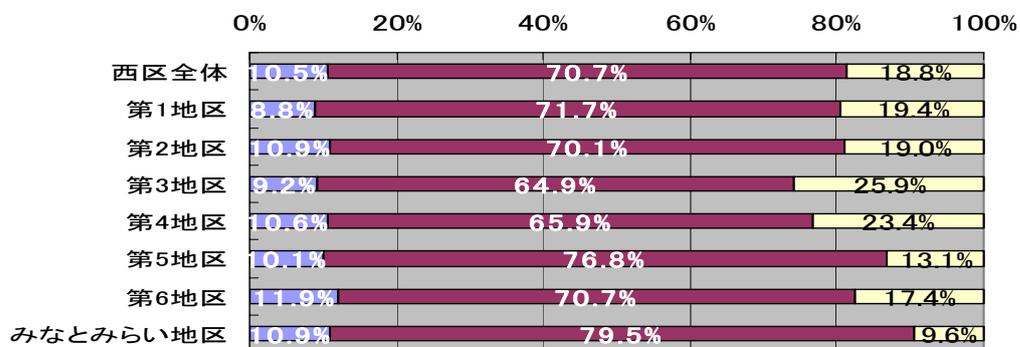
	人口	世帯数	平均世帯員数（人）
平成 16 年	88,547	44,921	1.90
平成 17 年	85,547	44,921	1.90
平成 18 年	85,885	45,527	1.89
平成 19 年	86,789	46,439	1.87
平成 20 年	91,988	49,449	1.86

(参考 将来人口推計)

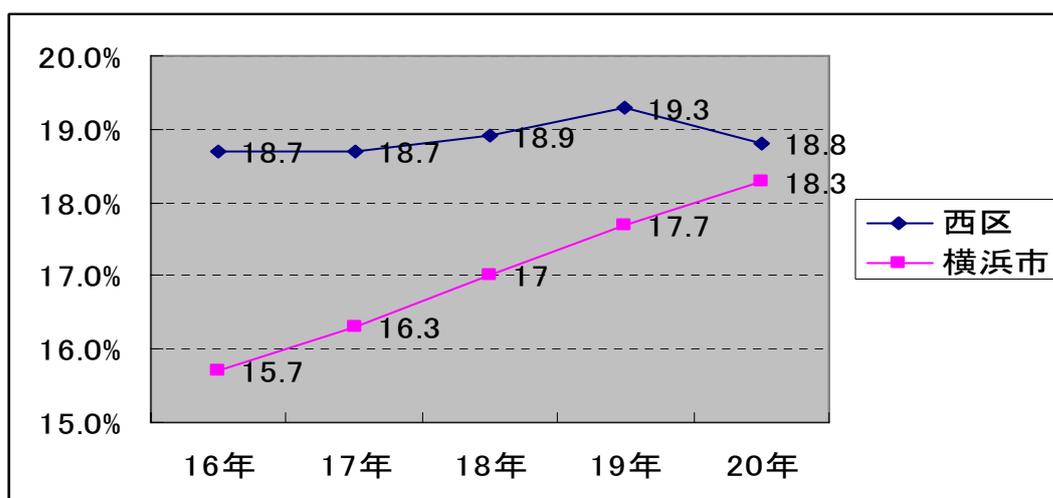
(参考 平成10～20年地区別の推移)



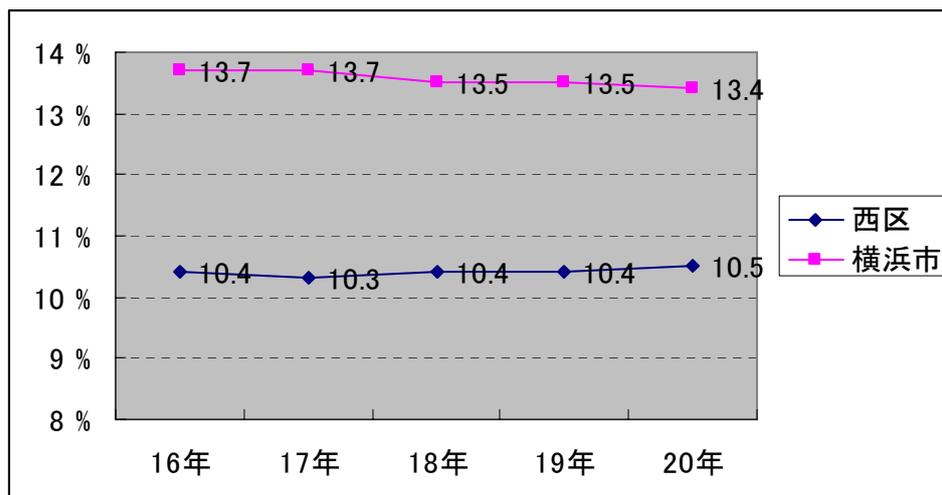
(参考 地区別年齢3区分人口 平成19年度)



【区全域の高齢化率の年次推移】



【区全域の年少人口比率の年次推移】



(2) 地域活動の概要

(平成16年4月現在)

組織	総数	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区
自治会町内会	98	14	11	16	17	18	22
ふれあい会	57	10	10	8	10	11	8
子ども会	81	9	10	14	13	17	18
老人クラブ	79	12	10	17	16	9	15



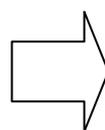
(平成20年4月現在)

組織	総数	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	MM
自治会町内会	100	14	11	16	17	20	21	1
ふれあい会	55	9	10	8	11	8	9	0
子ども会	72	7	10	14	11	13	17	0
老人クラブ	72	12	9	16	14	7	14	0

(3) 各種手帳所持者数

(各年3月31日現在)

	平成15年
身体障害者手帳	2,254
愛の手帳	302
精神障害者保健福祉手帳	306
特定疾患患者数	381



	平成20年
身体障害者手帳	2,368
愛の手帳	361
精神障害者保健福祉手帳	420
特定疾患患者数	392

(4) 介護保険認定状況 (各年3月31日現在)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
認定者数	2,769	2,785	3,742	3,374	3,182

認定区分 (平成20年3月31日現在)

	認定者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
西区	3,182	232	613	385	597	544	430	381
横浜市	104,536	7,075	18,616	11,444	23,249	18,112	13,612	12,428

6 計画の基本理念と基本目標

基本理念

西区に住む私たちは健康で楽しく豊かな生活を送ります。地域での生活に定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。

1

安全が確保され、
安心なまち

2

活気にあふれ、
健康なまち

3

一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

基本目標 西区のめざす姿

4

地域全体がつながりを持つまち

5

子どもが健やかに成長できるまち

6

必要な情報が正確に伝わるまち

中高年

サポートを必要とする人

高齢者

子ども

西区のめざす姿を担う人たち

若い人

福祉保健推進の目標値

今後も（高齢になっても、支援が必要になっても）西区に住み続けたい

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】
56.5% 58.3% 57.7% 90%

第2章 区全域計画

基本目標1 安全が確保され、安心なまち

小目標

- ①地域全体でサポートを必要とする人を見守る
- ②近隣の人と顔見知りになる
- ③地域で助け合う関係を築く
- ④マナーやルールを守り、お互いの信頼関係を深める

小目標から第2期で重点的に取り組む項目（重点推進目標）を定め、「第2期計画の取組の方向性」の項に記載します。

第2期の
重点推進
目標
(10 ページ)

福祉保健推進の目標値

◎西区は治安がよく、安全が確保されたまちと思う(問9)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 → 【目標値】

38.1% 48.6% 56.7% 60%

◎ごみ出し（曜日、分別など）のルールを必ず守る(問12)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】

75.9% 76.1% 74.8% 100%

◎ポイ捨てをしないというルールを必ず守る(問12)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】

71.3% 76.6% 78.9% 100%

◎公共の乗り物でのマナーを必ず守る(問12)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】

44.3% 42.8% 41.0% 100%

◎駐輪・駐車ルールを守る(問12)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】

63.4% 68.9% 72.2% 70%

◎ルールを守らない人を見かけたときに注意をすることができる(問13)

【平成15年度】 → 【平成19年度】 → 【平成21年度】 【目標値】

22.0% 23.6% 23.0% 35%

重点的に取り組む項目については、27年度（6年後）の具体的な目標値を定めます。

第2期計画の取組の方向性

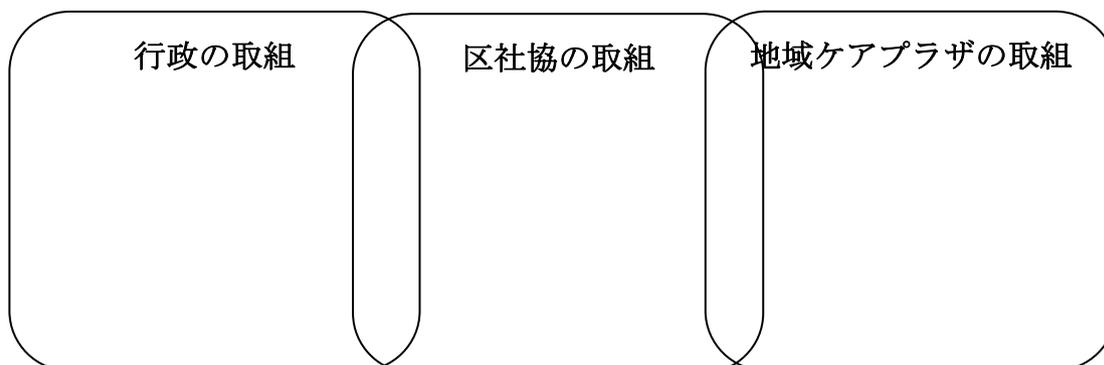
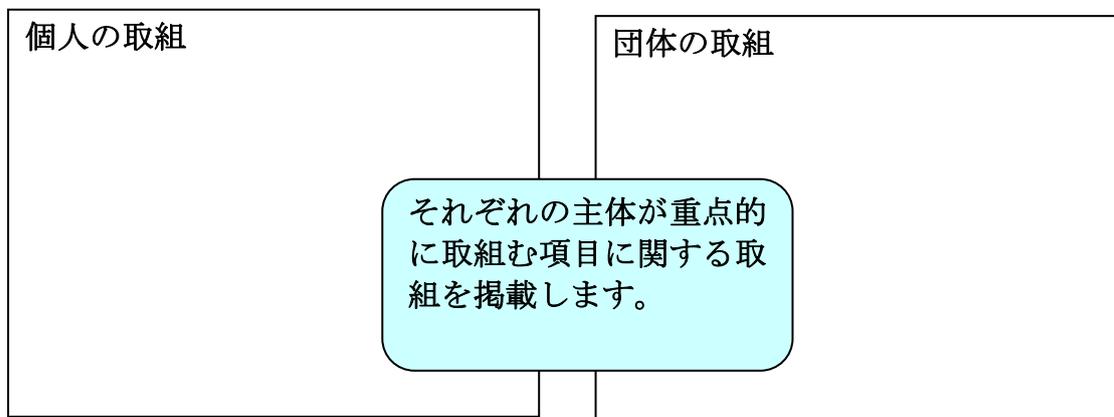
重点推進目標

地域で助け合う関係を築く

西区では、子どもの登下校時の見守り、ひとり暮らし高齢者等の見守り活動など地域の支えあいの取組が活発に行われています。また、第1期計画の5年間では、地域の防犯パトロールも各団体が連携した取組みが広がっていますが、一方で区民アンケートでは、災害時の対応が不安との意見が多くあります。

第2期計画では、災害時に支援を必要とする人の把握や支援の仕組みづくりなど区民の関心の高いテーマへの取組みを通して、お互いのことを知り合い、日ごろから地域で助けあう関係を築き、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。

福祉保健推進の目標値



第1期の区民・団体・行政の振り返りや区民からの意見を掲載します。

【第1期の取り組み状況】

個人の取り組み状況（アンケートまとめ）

「西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う」と回答した人の割合が56.7%と平成15年度に比べると18.6ポイント増加しました。

「公共の乗り物でのマナーを守る」と回答した人の割合が平成15年から3.3ポイント減少しているほか、「ごみ出しのルールを守る」「ポイ捨てをしない」というルールを守るも目標達成まで20ポイント以上の開きがあります。

団体・行政の取り組み状況

基本目標1に対する取り組み数	【平成17年度】	→	【平成20年度】
	160件		246件（86件増）

【町内会】地域の防犯パトロールを強化

【子ども会】集団下校時のあいさつ運動（各単位会）を実施

【区役所】「こども110番の家」の登録数はH20年3月現在564軒(学区内の他区のものも含む)で1年前に比べ、53軒増えています。また、学校との交流会を5校で実施しました。

【区社協】(障害福祉関係分科会)自分たちや地域ができることについて話し合い、「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を作成

【アンケート・地区別懇談会・地域のつどい等での区民の意見】

《現状と課題》

- ・ 住宅密集地に住んでおり、地震が起きた時の逃げ場がなく、不安を感じている高齢者が多い。
- ・ 路地が狭く、防災面で注意しなければならないところがある。
- ・ 横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。
- ・ 道が狭く、救急車も入れないところがある。
- ・ 個人情報の問題があり、高齢者などの把握が困難になっている。

《区民からよせられたアイデア》

- 知らない人どうしてもあいさつができれば、防犯性も高まり、何かあった時も話しやすくなる。
- まず、顔見知りになり、はじめてコミュニケーションがとれる。

(資料 3)

基本目標2 活気にあふれ、健康なまち**小 目 標**

- ① 自分が健康であるために、健康の意識を高める
- ② 共に地域をつくる姿勢を持つ
- ③ どの世代も活躍できる場面を持つ
- ④ 素直な気持ちで人とつながる

第2期の
重点推進
目標
(16 ペ
ージ)

福祉保健推進の目標値

◎自分が健康だと感じている(問1)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
77.9%		78.9%		79.8%
				【目標値】
				80%
◎過去1年の間に健康診断を受けた(問2)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
70.4%		71.2%		70.4%
				【目標値】
				80%
◎健康診断などの結果、生活習慣病が特にならない(問3)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
39.7%		40.4%		45.7%
				【目標値】
				50%
◎体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの医師がいる(問4)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
55.0%		55.4%		54.5%
				【目標値】
				90%
◎体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの歯科医師がいる(問4)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
53.1%		53.4%		53.0%
				【目標値】
				90%
◎体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの薬剤師がいる(問4)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
17.8%		19.2%		21.4%
				【目標値】
				30%
◎健康を維持するのに必要な身体を動かすことに既に取り組んでいる(問5)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
35.8%		37.6%		34.4%
				【目標値】
				40%
◎健康を維持するために食生活の改善に取り組んでいる(問6)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
47.6%		53.1%		51.4%
				【目標値】
				80%
◎家族以外で自分の世代と異なった人(子どもと高齢者など)と共に活動する機会があった(問16)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
38.0%		38.2%		40.1%
				【目標値】
				70%
◎自分の世代とは違った人と、共に活動できる機会があれば参加したい(問17)				
【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】
39.4%		37.9%		36.9%
				【目標値】
				60%

(問 22)

近隣への声かけや 安否の確認ができる	近隣への声かけや安否の確認をしている (※以下、()内は現在行っていないが今後できる)
【平成15年度】→ 67.2%	【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 22.5% (44.7%) 22.8% (41.8%) 80%
ごみ出しの手伝い ができる	ごみ出しの手伝いをしている
【平成15年度】→ 56.5%	【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 11.1% (40.8%) 12.4% (40.2%) 70%
買い物の手伝い ができる	買い物の手伝いをしている
【平成15年度】 39.6%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 5.3% (28.1%) 7.2% (27.4%) 50%
子どもの預かり ができる	子どもの預かりをしている
【平成15年度】 19.0%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 3.8% (13.3%) 4.1% (13.3%) 25%
通院や施設への 行き帰りの付き 添いができる	通院や施設への行き帰りの付き添い をしている
【平成15年度】 24.1%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 3.6% (18.4%) 3.9% (17.7%) 30%
部屋の掃除や片 付けができる	部屋の掃除や片づけ をしている
【平成15年度】 22.3%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 10.8% (16.3%) 13.0% (15.4%) 30%
草むしりが できる	草むしり をしている
【平成15年度】 34.3%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 12.1% (25.1%) 10.8% (25.6%) 40%
話し相手 ができる	話し相手 をしている
【平成15年度】 52.3%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 16.0% (38.1%) 19.3% (35.4%) 70%
おかずのお すそわけが できる	おかずのおすそわけ をしている
【平成15年度】 32.8%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 13.3% (18.2%) 12.9% (17.7%) 40%

(問 23)

自治会町内会 などの役員活 動に参加 したい	参加したことがある (※以下、()内は参加したことがないが今後参加 したい)
【平成15年度】 21.6%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 38.5% (18.1%) 36.3% (14.7%) 30%
自治会町内会 などの地域 行事(おまつり など)に 参加 したい	参加したことがある
【平成15年度】 37.7%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 48.2% (24.2%) 47.4% (27.5%) 60%
自治会町内会 の(子ども会 老人会など) に参加 したい	参加したことがある
【平成15年度】 30.1%	→【平成19年度】→【平成21年度】 【目標値】 34.9% (21.6%) 35.5% (21.3%) 40%

グループサークル活動（学習、 趣味など）に参加したい	参加したことがある （※以下、()内は参加したことがないが今後参加 したい）			
【平成15年度】 48.9%	→	【平成19年度】 28.7% (38.0%)	→	【平成21年度】 29.0% (36.6%)
				【目標値】 70%
高齢者や障害者（児）への 手助けなどの福祉活動	参加したことがある			
【平成15年度】 40.3%	→	【平成19年度】 12.5% (33.0%)	→	【平成21年度】 11.6% (30.8%)
				【目標値】 70%
健康づくり講座	参加したことがある			
【平成15年度】 49.4%	→	【平成19年度】 14.5% (42.2%)	→	【平成21年度】 14.3% (37.4%)
				【目標値】 70%

第2期計画の取組の方向性

重点推進目標1

自分が健康であるために、健康の意識を高める

健康は、個人の問題ととらえられがちですが、地域生活の視点で住民がともに健康を考え、共通の課題や対応策を検討することで、幅広い取組みや支援を具体化することができます。

第1期計画では、健康維持への関心の高まりともあわせ、介護予防のための体操、ウォーキングや講座など、様々な人が参加して地域で一緒に活動する健康づくりの取組がすすめられました。

第2期計画では、より多くの人に関心を持ち、楽しんで参加できる取組みを実施し、新たに地域活動に参加する区民を増やすとともに、健康づくり活動の場を住民相互の交流・人間関係づくりを進める場にします。

重点推進目標2

どの世代も活躍できる場面を持つ

自治会町内会やボランティアグループでは、活動を支える担い手不足が大きな課題となっています。

退職期を迎えた団塊の世代や中間層などさまざまな世代の区民が、自治会町内会やボランティアなどさまざまな場面・分野、地域づくりに参加でき、活躍できるしくみづくりを推進します

福祉保健推進の目標値

個人の取組

団体の取組

行政の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

個人の取組み状況 (アンケートまとめ)

生活習慣病などがとくにない区民の割合は増加していますが、運動習慣の定着や食生活の改善への取組みは5年間での大きな変化はありませんでした。

また、異なる世代との交流への参加の意欲について参加したいという人の割合は減少しています。

団体・行政の取組み状況

基本目標2に対する取組み数	【平成17年度】	→	【平成20年度】
	112件		272件 (160件増)

【保健活動推進員】環境事業推進委員、食生活等改善推進員、清掃ボランティア、鉄道事業者、横浜駅西口周辺事業者、消防署とともに、横浜駅禁煙区域のPRを通じて健康の大切さを広めました。

【医師会】禁煙外来を開設したり、紹介しました。

【食品衛生協会】食中毒防止キャンペーンを開催しました。

【生活衛生協議会】区民まつりで健康増進についてPRしました。

【保健活動推進員】ウォーキングの日設定等により区民の運動習慣の定着化を図っています。

【区役所】団塊の世代等を対象とした具体的な事業企画を募集しました。

【区社会福祉協議会】

【アンケート・地区別懇談会・地域のつどい等での区民の意見】

《現状と課題》

- ・ 町内会役員の高齢化や次世代の担い手が不足している。
- ・ 一人の人が複数の役割を担っており、忙しすぎて町内会活動を広く知ってもらう情報を発信できない。
- ・ 転居してきた人は地域に知り合いが少なく、地域の行事に参加するきっかけづくりが難しい。
- ・ 子どもの人数が減っている地区は子ども会活動の継続が難しくなっている。

《区民からよせられたアイデア》

- 同世代から声かけをして地域活動にさそう。
- 順番で役員を担当し、自治会町内会活動への理解を深める。
- 力仕事、料理上手、電気関係に詳しいなど自分の得意分野を生かし、町内で助け合う。
- グランドゴルフなど幅広い世代が取組めるスポーツを通じて、地域で健康づくりを進めている。
- 掲示板などを活用し、広く活動内容を周知する。
- 退職したばかりの人達に働きかけ、地域活動への参加促進

(資料3)

基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

小 目 標

- ① 地域と接点を持つ
- ② 自分からも気持ちを伝える
- ③ サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする
- ④ 障害児は、いろいろな人といろいろなところ（場面）で多くの体験をする

第2期で
重点推進
目標
(20 ページ)

福祉保健推進の目標値

◎障害者（児）と共に活動を行う機会があった(問 14)

【平成 15 年度】	→	【平成 19 年度】	→	【平成 21 年度】	【目標値】
17.1%		18.4%		16.0%	30%

◎障害者（児）と共に活動する機会があれば参加したい(問 15)

【平成 15 年度】	→	【平成 19 年度】	→	【平成 21 年度】	【目標値】
30.3%		25.4%		22.9%	50%

◎ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる(問 20)

【平成 15 年度】	→	【平成 19 年度】	→	【平成 21 年度】	【目標値】
53.9%		50.9%		49.3%	80%

第2期計画の取組の方向性

重点推進目標

サポートを必要とする人をありのままに受け入れる気持ちを持ち、支援をする。

平成17年に、障害の種別に関わらず一元的に福祉サービスを利用できる仕組みとして障害者自立支援法が制定され、また、西区では、(法人型の)障害者地域活動ホームや精神障害者生活支援センターが開所するなど、近年、障害児者が地域で生活するための基盤整備が進みました。

第2期計画では、障害児者を初めとしたサポートを必要とする人が、必要な支援制度を利用しながら、地域に自然に溶け込み、いきいきと暮らし続けることができるよう、法人型地域活動ホームや精神障害者生活支援センターなどの地域の拠点を中心に、地域とのつながりづくり、関係づくりを進めます。

福祉保健推進の目標値

個人の取組

団体の取組

行政の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

個人の取組み状況（アンケートまとめ）

「障害者（児）の方と共に活動を行う機会があった」と答えた割合は増加しましたが、「これから参加したい」と思う割合が減少しています。

「ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や友人がいる」と答えた割合も 4.6 ポイント減少しました。

団体・行政の取組み状況

基本目標 3 に対する取組み数	【平成 17 年度】	→	【平成 20 年度】
	124 件		145 件 (21 件増)

【手話サークル西】 講演という形で多くの聴覚障害者の話しを聞き、手話技術だけでなく、聴覚障害者をより深く理解しています。

【は一とメンバーズ】 ピアカウンセリングの場を広めています。

【まつぼっくり会成人部】 地域のお祭りへ参加しています。

【小学校】 運動会種目に車椅子を取り入れる等車椅子体験学習の実施

【各障害者団体】 イベントに参加し、日頃の活動や補助具の紹介等を行い交流をはかりました。

【区役所】 障害者団体と協働で、区民向けの障害の理解に関する啓発講座を行いました。

【区社会福祉協議会】

【アンケート・地区別懇談会・地域のつどい等での区民の意見】

《現状と課題》

- ・支援が必要な人が何に困っているのかがわからない。
- ・地域の活動に参加したい気持ちはあるが、行事などどこで何を行っているか情報が入りにくい。
- ・障害児と地域で活動する機会が少ない。
- ・山坂が多い地域では、高齢になると遠くまで買い物に行ったり、ごみ出しすることや分別が大変になる。

《区民からよせられたアイデア》

- まず、あいさつすることで顔見知りになり、普段の会話を通じて互いの理解が深まった。
- 障害者が自分の活動内容を地域に情報発信することが大切である。
- 頼まれればできることがあるが、困っている人がどこにいないのかがわからないので、橋渡しをしてくれる人が身近にいるとよい。
- 近隣で隣組のような組織を作り、困った時に近くで必ず連絡ができる人がいて、電話をすれば、まず聞いてくれるようなくみづくり。

(資料 3)

基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

小 目 標

- ① 自分たちの活動を見つめなおす
- ② 関係する団体どうしの連携を図る
- ③ より広範囲でのつながりを持つ

第2期で
重点推進
目標
(24 ペ
ージ)

福祉保健推進の目標値

(第1期計画では指標なし)

第2期計画の取組の方向性

重点推進目標1

関係する団体どうしの連携を図る

第1期計画の5年間では、地域の福祉保健を推進する団体の取組数は増加しました。また、地域に根ざした組織のほかにも、特定のテーマに沿って活動するNPO等の団体も増えてきています。

しかし、一方で、同様の取組を同じ時期に複数の団体が行っていたり、構成員の減少や高齢化が進むなど、活動の縦割り、担い手不足が大きな課題となっています。

第2期計画では、関係する団体同士がお互いを知り合い、それぞれの個性を認めながらゆるやかにつながり、協力することで、担い手一人ひとりの負担軽減を図りながら、地域の福祉保健を一層推進します。

福祉保健推進の目標値

個人の取組

団体の取組

行政の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

団体・行政の取り組み状況

基本目標4に対する取り組み数	【平成17年度】	→	【平成20年度】
	60件		91件 (31件増)

- 【食事サービスグループ】定例会を設けて意見交換しています。
- 【保育園】研修会等に参加し、他園との連携を結ぶ機会をつくっています。
- 【障害者施設】区社協の障害者福祉関係分科会へ加入し、交流に努めています。
- 【ケアプラザ】企業ボランティアと高齢者や介護者を対象とした事業を企画実施しています。
- 【区社会福祉協議会】高齢福祉関係分科会を年3回開催し、地域で行われている高齢者支援活動の情報収集について検討しています。
- 【区役所】子ども関係団体が連携しやすい仕組みづくりを検討します。

【地区別懇談会・地域のつどい等での区民の意見】

《現状と課題》

- ・ 地域活動は活発だが、各団体が縦割りになっている。互いの活動を理解しあう機会が少ない。
- ・ 複数の団体で同じような活動をしており、役割分担などについて話し合いが十分おこなわれていない。
- ・ 1団体だけでは、人数にも限りがあり活動が広がらない。

《区民からよせられたアイデア》

- 地域の行事をおこなう際に、地区社会福祉協議会を中心に各団体が連携して企画・運営をし、地域に根付いている。団体をまとめる機能が大切。
- 高齢者の見守りや子育て支援など、民生委員・児童委員だけでなく、自治会町内会役員、友愛活動推進員、更生保護女性会、ボランティアなどが役割分担し、一緒に取り組んでいる。
- 団体の特性や得意分野を生かして行事などを継続しておこなっている。
- 地域の懇談会などを通じて、互いの活動を知り、一緒に取り組みをはじめた。同じ地区で活動していても、互いを理解し合おうと歩み寄ることが大切。

(資料 3)

基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

小目標

- ① 自分のからだを大切にする
- ② 良いこと、悪いことの判断力を身につける
- ③ 周りの大人は、子どもを気にかけて、声かけや見守りをする
- ④ 子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる

第2期の
重点推進
目標
(28 ペ
ージ)

福祉保健推進の目標値

◎地域（日常生活圏）で未成年者の喫煙をほとんど見かけない（問11）

【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】	【目標値】
11.1%		19.9%		27.9%	100%

◎近隣の子ども（中学生以下のお子さん）にあいさつなどの声をかけること
がある（問18）

【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】	【目標値】
57.0%		61.1%		57.9%	90%

◎近隣の子ども（中学生以下のお子さん）に「危ないよ」など注意すること
ができる（問19）

【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】	【目標値】
60.1%		61.5%		56.4%	90%

第2期計画の取組の方向性

重点推進目標

子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる

第1期計画の5年間で、西区の0～6歳の子どもが大きく増加し、区民の子育て支援へのニーズは高まっています。

地域では、親子のふれあいや交流の場の提供、子育て情報の発信などが各団体・行政により行われています。

また、西区地域子育て支援拠点が平成21年度末に開所する予定です。

第2期計画では、子育てに関する取組を行う様々な団体がネットワークをつくり、子育て中の親の頑張りを地域で支えます。

また、幼少のころから地域との関わりを学び、次世代を育てていきます。

福祉保健推進の目標値

個人の取組

団体の取組

行政の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

個人の取組み状況（アンケートまとめ）

未成年の喫煙については、「ほとんど見かけない」と回答した割合は8.8ポイント増えましたが、21年度においても「よく見かける、時々見かける」と回答した人が49.1%であり、引き続き未成年の喫煙防止に取り組んでいく必要があります。

子どもへの声かけ（0.9ポイント増）については5か年での大きな変化はありませんでしたが、子どもへ注意できるかについては、3.7ポイント減でした。

団体・行政の取組み状況

基本目標5に対する取組み数	【平成17年度】 → 【平成20年度】
75	118（43件増加）

【歯科医師会】学校歯科医、幼稚園歯科医が食育についての講話の機会を見つけて実施しています。

【小学校】学校保健委員会で早寝早起き朝ごはんについて啓発6年生の薬物防止教育に取り組んでいます。

【子育てプロジェクトにじ】【地域ケアプラザ】

地区社協と連携し、ケアプラザで3世代交流を実施しています。

【食生活等改善推進員会】子どもや若い世代とのふれあい交流を通じた健康づくりの普及を行っています。

【区役所】子育てに関わる団体同士の連携のきっかけづくりのため、リーフレットを作成

《現状と課題》

- ・子どもの数が減っている地域では、子ども会活動が困難になっている。一方、子どもの数が増えているところでは幼稚園の数や小学校の教室が不足している。
- ・道路を歩く時のマナーやポイ捨てなどルールを守らない子どもがいる。
- ・転居してきて周囲に知人がおらず、子育てに悩んでいる親がいる。

《区民からよせられたアイデア》

- 子育て支援の場で自治会町内会の活動を伝え、若い世代への地域情報の伝達を行い、地域が子どもたちを見守っていることを教えている。
- 自治会町内会を年代別に部会に分けて、子どもの頃から地域の活動に参加し、地域への理解を深めるとともに、世代間でマナーやルールを教える。
- 登下校時の見守りを自治会町内会を中心に行い、声かけを積極的に行っている。あいさつをしなかった子どもも顔見知りになると、信用しあいさつを返してくれるようになった。

(資料 3)

基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

小 目 標

①地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる

第2期の
重点推進
目標
(32 ペ
ージ)

福祉保健推進の目標値

◎西区からのお知らせ（福祉・健康のお知らせなど）や催し物（生涯学習など）の情報を、ホームページから得る

【平成15年度】	→	【平成19年度】	→	【平成21年度】	【目標値】
2.4%		4.0%		4.0%	10%

第2期計画の取組の方向性

重点推進目標

自分自身に必要な情報を選択する (新たな小目標を設定します)

第1期計画の5年間で、インターネットを利用する区民は増えていますが、広報紙・掲示板も情報を得る手段として多くの区民に利用されています。また、顔見知りの人から聞く口コミ情報も情報を得る重要な手段です。

一方で、様々な媒体から様々なレベルの情報が数多く提供されている状況です。

自分の地域で行われている活動について知り、参加するきっかけとしていくこと、支援を求めたいときにその情報を得ることができることなど、一人ひとりが必要とする正確な情報を手に入れることができるための工夫が必要です。

第2期計画では、区民が自分自身に必要な情報を選択できるよう、情報を整理し、わかりやすく伝える取組みを進めます。

福祉保健推進の目標値

個人の取組

団体の取組

行政の取組

区社協の取組

地域ケアプラザの取組

個人の取組み状況（アンケートまとめ）

西区からのお知らせや情報の入手方法として、ホームページから得るとした割合が1.6ポイント増加しました。一方、広報よこはま西区版（6.2ポイント減）、回覧板（9.5ポイント減）、区役所窓口のチラシ（7.4ポイント減）といずれの入手方法も減少しています。

「インターネットを活用している」と回答した割合は平成19年48%が21年度には55.1%と7.1ポイント増加しました。

団体・行政の取組み状況

基本目標6に対する取組み数	【平成17年度】	【平成20年度】
	36	70（34件増加）

【薬剤師会】ホームページを通じた情報提供をしました。

【更生保護女性会】子育て支援の場で母親たちに情報を伝えました。

【獣医師会】野良猫問題について相談を受け、一緒に考える会があるということをお伝えしました。

【PTA】地域の掲示板を活用し、PTA・学校共催の行事をお伝えしました。

【eネットにし探検隊】eネットにし探検隊では各地区で行われている地域に密着した行事や団体の活動をまとめて、わかりやすい情報を発信しました。

【区役所】広報よこはま西区版のページ数を増やし、タイムリーな情報を掲載することで内容の充実を図りました。

【アンケート・地区別懇談会・地域のつどい等での区民の意見】

《現状と課題》

- ・ 情報量が多すぎて、何が必要な情報なのかわかりにくい。
- ・ パソコンを利用しない人もいるので、掲示板や回覧板などを活用するが、枚数が多く、正しい情報が伝わりにくい。
- ・ 身近な地域での情報や団体の活動を伝える方法がない。

《区民から寄せられたアイデア》

- ホームページに自分ができるボランティア内容などを掲載し、支援が必要な人が情報を得る。
- バス停や病院など待ち時間であれば、掲示されているチラシをよく読む。より広く知ってもらいたい情報はチラシを掲示する場所を工夫する。
- 若い世代は、パソコンや携帯電話のメールなどから情報を得る傾向がある。
- 近隣の人から行事に誘われたり、同じ世代の人から聞く口コミ情報が、身近で信頼感を得やすい。

第3章 地区別計画

第4章 リーディング事業(重点推進事業)

第5章 第1期計画の評価

第6章 第2期計画の推進と振返りの方法

(資料編)